



寄・土佐原のしだれ桜

町ごとに同じサービスや業務をすべきものを、複数の市や町が協力して行うものが「広域行政」です。松田町では、し尿処理と休日急患診療所の運営、介護認定審査を足柄上衛生組合、ごみ処理を足柄東部清掃組合で、さらに消防・救急を足柄消防組合で広域的に行っています。今月31日には小田原市と南足柄市・上郡5町が広域化による常備消防体制をスタート、また新しい小田原市斎場の運営についても協議が進んでいます。町の身近な主要広域行政を紹介します。

消防体制



44年前、町役場に配備していたボンネット型の水槽付きポンプ車。組合発足と同時に、上郡唯一の消防車として東名高速での車両火災などでも活躍しました

消防署松田分署前

「消火体制が手薄にならないのか」「救急車は間に合うのか」。小田原市との消防の広域化について、



▲足柄消防組合が実施するポンプ性能検査
=酒匂川親水広場

そんな心配の声もありませんが、逆に広域化によってこれまでの管轄にこだわらずに相互支援による初動、バックアップ体制が取れるようになります。何よりも消防力がアップします。震災発生やトンネル事故など、近年増加している救急にも強化された消防力が発揮されます。

現在の足柄消防組合は、昭和46年8月に上郡5町(中井、大井、松田、山北、開成町)で常備消防を担う足柄上消防組合として発足、その後、南足柄市も加わり、以来13年間、平成20年と21年に起こった東名・都夫良野トンネル内の車両火災などを含め、住民の

生活と生命、財産を守ってききましたが、3月末で解散し、小田原市消防本部に統合され業務委託されます。

平成24年中、1市5町の管内火災は36件で、松田町では前年の6件がゼロになりました。救急出動は全体で4127件で前年を下回りましたが、なお1日当たり11件ほどあります。

現在、足柄消防組合では

5消防署・分署・分遣所で消防車10台、救急車6台を所有しています。小田原市の6消防署・分署の同30台、救急車7台が加わるようになります。

また、ごみ処理は、各町で行っていたものを、昭和57年、3町(中井、大井、松田町)で足柄東部清掃組合を設立、総事業費11億円をかけて大井美化センターを建設し稼働させました。

前後して中井町にも燃えないごみ処理の美化センターが完成、61年には同町岩倉に最終処分場が

ごみ・し尿 休日急患診療

身近な 広域行政

消防救急からごみ処理まで

「生活の安全・安心」を広く

▲大井美化センター。熱した砂で焼却する方式で、ごみを効率的に燃やしています



でき、大井美化センターで焼却された一般廃棄物の灰を処理しています(二部は民間業者へ)。その後、両センターには、破碎施設が造られ、大井では排ガス高度処理施設も整備されています。

大井美化センターでは、3町からの燃えるごみを朝6時から夜10時まで1日約35ト処理しています。資源ごみ・粗大ごみの個別の収集(平成5年)やプラスチック容器分別収集(同16年)など、ごみを減らす取り組みもあって、町で出るごみは年間3500ト程度に減ってきています。

さらに減量化を進めるため、町でも燃えるごみの中で大きな割合を占める生ごみの減量化へ、コンポストや電動式分解機の購入助成などを進めています。



▲日曜日には利用者が多い 休日急患診療所 =開成町吉田島

また、足柄上1市5町(南足柄市、中井、大井、松田、山北、開成町)のし尿や浄化槽汚泥は南足柄市斑目の足柄上衛生組合で処理されています。休日急患診療所(開成町)や介護保険の認定審査も衛生組合で行われています。

その他

その他にも汚れた生活排水や雨水は、下水道により酒匂川左岸酒匂幹線を通って、下流の酒匂管理センターで流域10市町分が処理されています。

また、斎場関係では、現在の小田原市斎場が供用開始から、既に41年経過し、老朽化と火

葬件数増加に対応するため、広域斎場として整備する方法などの検討を進めてきました。その結果、小田原市が事業主体となり、小田原市斎場として建て替えることとなりました。

平成30年度の供用開始を目指し、今後の事業は、事務の委託などにより、2市5町(小田原、南足